

耐火型スチールパネル工法を開発

低成本、短工期で建築可能

シルバー・ウッド

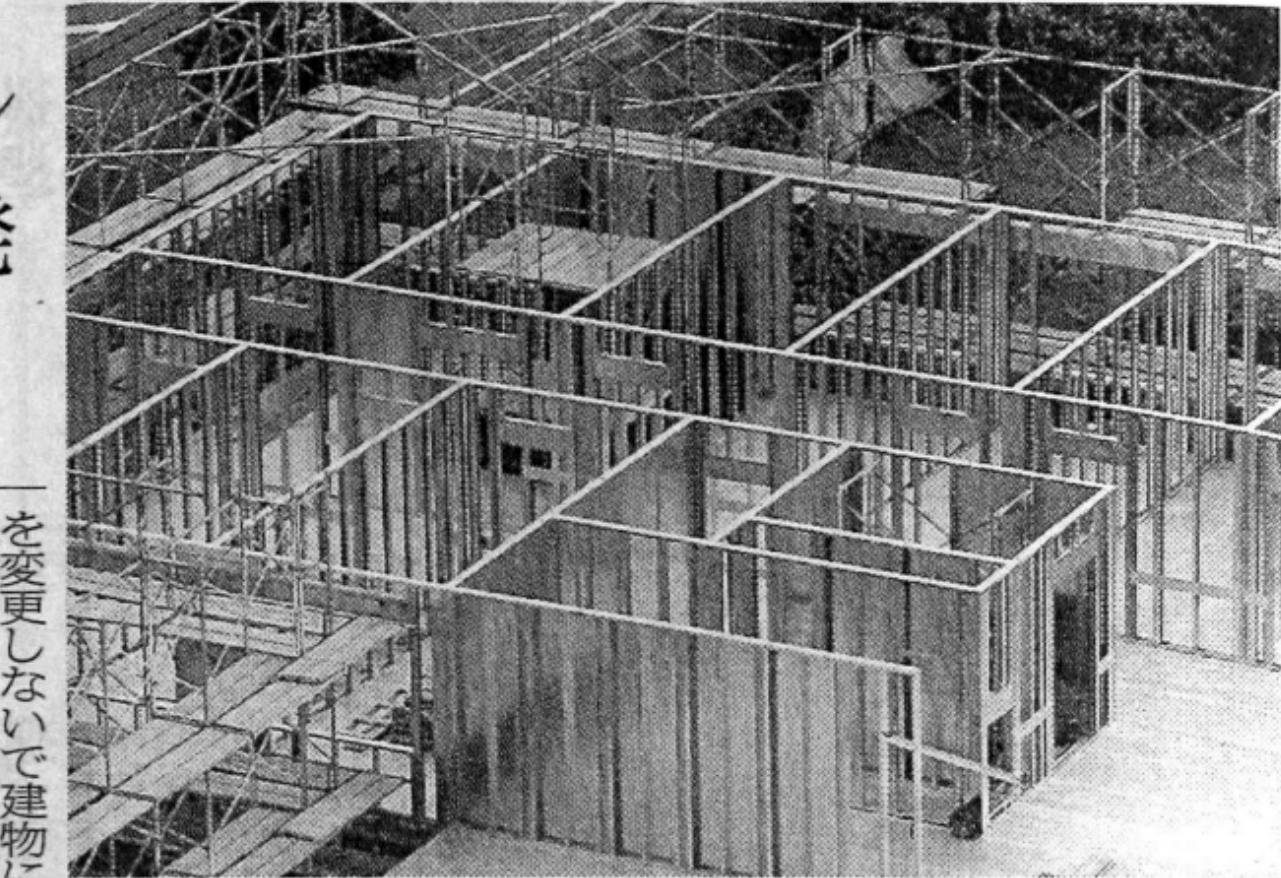
共同住宅向けなどの構造用パネルを販売しているシリバーウッド（本社・千葉県浦安市）は、耐火型スチールパネル工法を開発した。重量鉄骨造やRC造以外の構造ではこれまで不可能だつた耐火建築物を、基本設計を変更することなく低コスト、短工期で建てることができる。

スチールパネル工法は、厚さ1ミリ程度の超薄肉鋼板を壁構造部材としたもので、主に中低層建築物を対象とした工法。2001年11月には、薄板軽量形鋼造として国土交通省から正式に告示され、住宅金融公庫の融資対象工法としても承認されている。

耐火建築物にしなくてはならない建物は従来、重量鉄骨造やRC造といった構造に限られ、予算面で難点があつた。しかし、このほど開発した耐火型スチールパネル工法の採用で、坪単価50万円以下という低コストを実現した上、基本設計

を変更しないで建物に耐火性を持たせることができるもの。構造躯体の重量が軽く、基礎杭工事も不要だ。

施工手順は、あらかじめ壁や床、屋根を面とする6



壁や床、屋根を面とする6面体構成と内外装の同時で大幅に工期を短縮

面体を構成後、内外装を同時に進行で仕上げるため、作業効率が向上し、工期を短縮できる。

使用する形鋼材は、専用に開発された溶融亜鉛めつき鋼板で、品質確保促進法の劣化に関する項目では「等級2」相当のさび防止処理が施されている。耐久性が長く、大規模改修工事を必要とするまでの期間は50~60年と非常に長い半面、有形減価償却期間は19年ととても短いため、投資用物件に適している。

同社は今月から同工法の本格販売に乗り出しており、今後は3階建ての大型介護施設向けなど、耐火性が必要となる建築物への本格普及を目指す。